

オープンバリアメンブレンテクニックの トラブル

大森 有樹

大森歯科医院



オープンバリアメンブレンテクニックは、GBR やリッジプリザベーションに用いられ、創の一次閉鎖なしで遮断膜を露出させたまま創傷治癒させる方法である。次世代の細胞遮断膜（d-PTFE 膜）が開発されたことにより、2000年頃から用いられている。従来のGBR（e-PTFE 膜）では創の一次閉鎖を行うため、骨膜を切開して減張する必要があり、患部に痛み、腫脹や出血といった合併症が見られることがよくあり、また、創の裂開による遮断膜の露出が原因で感染が起こることもある。

しかしオープンバリアメンブレンテクニックだから絶対にトラブルが起こらないとは限らない。今回は非吸収性メンブレンを用いてオープンバリアメンブレンテクニックでのGBRを行った結果トラブルが発生したケースを供覧し、その方法についてディスカッションしていきたいと思う。

略 歴

1999年 九州歯科大学 卒業
2005年 大森歯科医院 開設

現在の役職及び所属学会 等

- ・EAO メンバー
- ・AO メンバー
- ・ITI メンバー
- ・大阪 SJCD 専務理事
- ・太成学院大学 歯科衛生専門学校 非常勤講師（インプラント）
- ・歯科医師臨床研修 指導医
- ・大森塾 主宰

memo